

やさしい解説

AIT通信

Accounting Information Technology

2007年(平成19年)10月創刊
第5号 平成20年2月号

節分であれ
鬼は〜外〜!
二本松では鬼外〜!



発行
MCS グループ
有限会社エーアイティ研究所
〒969-1169
福島県本宮市本宮字小原田 200 番地 2
TEL 0243-33-5538 FAX 0243-33-4467
URL <http://www.motomiya-mcs.jp/ait/>
E-Mail info@motomiya-mcs.jp

Web 2.0 って、なに?

最近よく耳にするなぁと思っていたら、もうすっかり定着した感のある「Web 2.0」。

でも、あらためて「Web 2.0」って何?と考えると、意外と答えられなかったりします。

「Web 2.0」という技術的な規格や決まりがあるわけではなく、インターネット上でのコンテンツの提供の仕方、技術の提供の仕方、サービスの使い方などを漠然と指したものです。つまり、技術的な変化ではなく、質的な変化を表した言葉です。

Web 2.0 の概念を体系的にまとめて論文を発表したティム・オライリー氏によると、Web 2.0 を特長付けているのは、次のような事柄になります。

- ① ユーザーの手による情報の自由な整理
- ② リッチなユーザー体験
- ③ 貢献者としてのユーザー
- ④ ロングテイル
- ⑤ ユーザー参加
- ⑥ 根本的な信頼
- ⑦ 分散性



なんだか、ますますわからなくなってきました。

我々一般ユーザーに直接関係がありそうなポイントを整理してみると、ブログ、mixi、Wikipedia、検索エンジン最適化(SEO)と言ったキーワードが浮かんできます。

ユーザー参加 <ブログ、mixi>

かつての“ホームページ”は、情報提供側と提供される側に境界線がありました。提供側は一方的に情報を発信し、提供される側はそれをただ見るだけでした。企業の立場で見ると、一度公開したホームページはあまり更新されることもなく、あくまで広告の一種、紙チラシと同様のもの、という捉え方でした。

しかし、現在は、かつて提供される側だったユーザーが参加することで、そのWeb サービス自体が成立するという姿に変わってきました。



ブログやmixiはその最たるもので、無料で簡単に開設することができ、自分の日常や趣味の話題等を自由に情報発信することができます。また、同じ趣味や共通点を持つ他のブロガーとの交流も簡単に行えます。他人のブログに自由にコメントを書いて参加することもできます。ユーザー同士の横のつながりを簡単に作ることができる仕組みになっているのです。

企業側としては、この横のつながりを活用して、かつての“口コミ”をインターネット上で再現し、商品のPRを行うなどの試みをしているところもあります。

根本的な信頼 <Wikipedia>

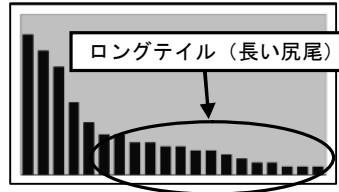
インターネット上の百科事典ともいえるべき「Wikipedia」(<http://ja.wikipedia.org/>)。さまざまな事柄についての情報を得ることができます。調べ物をする際に利用する方も少なくないのではないのでしょうか。

実はこのWikipedia、ユーザーが自由に書き込みを行うことができます。ユーザーが参加することで、常に最新の情報が掲載される仕組みなのです。ただし、書き込む内容には、公正で中立的な視点が求められます。これが、上記⑥「根本的な信頼」に当たります。公正な記入がされるかどうかは、ユーザーの良心に任せます、ということなのです。

ロングテイル <検索エンジン最適化(SEO)>

企業にとって、売れる商品、売れない商品を分析することはとても重要です。普通、「2:8の法則」に基づきABC分析を行い、売れ筋下位商品は整理します。

しかし、インターネットショップでは、この売れ筋下位商品が重要になります。一般のお店には置いていない商品を取り扱うことで、逆にリピーターを増やすことができるのです。そのためには、商品を“検索ヒット”してもらわなくてはなりません。検索ヒットしてもらうためには、検索エンジン最適化が重要です。Yahoo!やGoogle等で検索した時に、上位に表示されるように工夫を施すのです。



あらためてWeb 2.0 を考えてみると、結局、行き着くところは「人と人のつながり」、コミュニケーションを求めているのかなど、再認識させられたりします。

みなさんも、ブログ、始めてみませんか?

編集後記 先日発売された Apple 社の「MacBook Air」。「薄さ」にこだわり、利便性を無視した部分もありますが、とても美しいシルエットで、魅力的な製品です。Apple 社はこれまで、Macintosh、iMac、iPod、iPhone など、その時々革新的な商品を世に送り出してきました。世の流れは Windows ですが、Apple 社製品が Windows の世界に与えた影響は大きいと言えるでしょう。中学生の頃、同級生宅にあった Apple II がとても輝いて見えたことを懐かしく思い出しました。(本田)